

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スポーツ療育センター・ココスポーツ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日 ～ 2026年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 17日 ～ 2026年 1月 24日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	フットサルを通じて、お子様一人ひとりの運動能力や可能性を伸ばし、社会性や協調性を育むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様の興味関心があることをプログラムの内容に取り入れ、楽しく取り組めるようにしている。</li> <li>・成功体験をたくさん積めるようにすること、自己肯定感を高めることを意識して療育を行っている。</li> <li>・体の使い方が分かるように具体的にわかりやすく説明を行っている。</li> <li>・母子分離が難しい場合は、少しずつ活動に参加できるようにサポートしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールのある集団活動を通して、楽しく運動に取り組む。</li> <li>・お子様の活動レベルに合わせた内容を提供し、活動の中で様々な動きを獲得できるよう支援を行う。</li> </ul>
2	保護者にフィードバックを丁寧にすることで、信頼関係を構築している。	・お子様の活動の様子を伝えることで、お子様の支援の方向性を保護者と一緒に考えている。	・お子様の目標や課題について共有し、アプローチ方法を考えていく。
3	人工芝のコートを完備している。	・屋外フットサルコートを2面を建設しており、子どもたちがたくさん身体を動かすことができる場所を確保している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動スキルとコミュニケーション力を伸ばすことで、楽しみながら成長し、社会性を育んでいく。</li> <li>・スポーツを通じて、子どもたちの発達を支えることを目標に、脳機能を発達させるプログラムを実施し、脳の成長をサポートしていく。</li> </ul>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご家族が合同で参加したり、交流したりする場面が少ない。	・ご家族が困っていることや相談したいことに対して、個別の対応は行っているが、集団での実施には至っていない。	・法人内の事業所にも相談し、保護者を対象とした集まり等を開催し、保護者の交流の場面も設定できるようにしていきたいと考えている。
2	地域のお子様と交流する機会が少ない。	・施設の周辺は住宅地や小学校等があり、地域のお子様も多く生活されている立地になっている。しかし、コート開放等を実施してしていないので、施設を利用しているお子様が中心になってしまう。	・秋祭りイベントを開催し、地域のお子様と交流する場所を提供し、一緒に楽しく過ごす時間を増やしていきたいと考えている。
3	駐車場の台数に限りがある。	・見学や送迎で来所された車を停める台数が限られている。近隣の駐車場に停めてもらったり、送迎で混雑しているときは、迂回してもらっている。	・近隣には住宅や配送トラックの出入りもあるので、引き続き職員を駐車場前に配置して安心、安全に保護者やお子様をお預かりするように努める。

	公表	保護者等からの事業所評価の集計結果
--	----	-------------------

事業所名		スポーツ療育センター・ココスポーツ					公表日	2026年 2月 17日	
利用児童数							22名(内きょうだい児5名)	回収数	15枚（配布16枚）
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		・プログラムの工夫や導線の意識など、子どもの衝突を防ぐための配慮は引き続きおこなう。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100%	0%	0%	0%	・常に手の届くところに先生がいてくれるので、とても安心感があります。	・引き続き、活動内容に応じた人員配置を行っていく。プログラム中の職員の立ち位置など、職員間でこまめに連携をとりながら、死角を作らないように注意する。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		・室内に段差はなく、活動に集中できるような環境づくりを心がけている。今後も必要に応じて、視覚支援を作成していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		・ウイルス感染対策も引き続き行い、ご利用様が安心して過ごせるよう、衛生面に気をつける。	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	93%	0%	0%	7%		・個別支援計画書に基づいて支援を行い、一人ひとりに合わせた支援方法を職員間で共有し実施していく。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		・今後も支援プログラムに沿った支援を実施していく。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		・職員全員が計画内容を周知し、一人ひとりに合った支援ができるよう、日々検討を繰り返し、療育の質を高めていく。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		・ガイドライン総則に記載されている基本活動を理解し、事業所での活動に落とし込み、支援内容を策定していく。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		・支援内容に対してこまめにフィードバックを行い、全体共有することで、更に内容を精査していく。こまめにケース会議を行い、支援内容の実施状況を共有する。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		・お子様に合わせて、今までのプログラムの発展や、新しいプログラムの導入も積極的に行う。	
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	33%	20%	14%	33%	・こども園に通園した後に通所しているので、必要ありません。	・交流イベントを開催し、関わる機会をつくる。 ・児発、放デイ、スクールの全事業の動きについて、全体に発信していく。	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%	0%	0%	0%		・問い合わせなどに対して迅速に対応できるよう、職員間でも知識理解を促し、丁寧に正確に説明できるようにする。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%	0%	0%	0%		・面談時にも細やかに支援内容の説明ができるようにする。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	60%	7%	7%	26%		・法人内の事業所のペアレントトレーニングプログラムの案内を増やしていく。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100%	0%	0%	0%	・活動後に必ず丁寧なフィードバックがあり、成長を共有できるのでありがたいです。	・こまめなモニタリングを行う。 ・職員間で送り内容を細かく共有し、どの職員が保護者と連携を取っても、組織として共通認識がなされるよう対応する。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	93%	7%	0%	0%		・フィードバックのときに困りごとも含めて保護者から聞き取りを行う。 ・ご意向も含めて、別で相談対応も行う。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		・お子様・保護者に寄り添う形で支援提供、相談、助言等を行う。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	40%	13%	13%	34%	・父母会などは特にないが、見学の際に他児童の保護者の方と交流できる機会がある。	・保護者会や講演会イベント等、可能な範囲で開催したい。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%	0%	0%	0%		・契約時に説明している。 ・日頃から相談しやすい環境を作る。 ・送迎等の関係で顔を合わせる機会が少ない保護者にも、モニタリングでじっくり話せる機会を作っている。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%		<div>・学校やご家庭での様子も聞き取り、支援に繋げる。</div> <div>・公式LINEでも連携が取りやすい環境を作る。</div>
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	93%	0%	0%	7%		<div>・Instagram、SNS投稿の継続、投稿内容の質の向上。</div> <div>・コスボ通信や公式LINEで発信を行う。</div>
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	86%	7%	0%	7%		<div>・SNS等の投稿内容は引き続きWチェックを徹底。</div> <div>・個人情報の取り扱いについて、定期的に全体で確認を行う。</div>
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	87%	0%	0%	13%		<div>・マニュアルは作成しているので、誰もが閲覧できる体制を整える。</div> <div>・マニュアルや設備等の発信も行う。</div>
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	93%	0%	0%	7%	<div>・通所時、避難訓練に参加しました。</div>	<div>・避難訓練を年2回実施している。</div> <div>・規定に定められた避難訓練に限らず、安心安全に利用してもらえるように、防災意識を高められる活動を取り入れていく。</div>
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	87%	0%	0%	13%		<div>・事業所の安全を確保するため、事業所内の設備点検を全体で行っている。</div> <div>・施設前の駐車場での車の往来にも気を付けて職員を配置している。</div>
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	80%	0%	0%	20%		<div>・契約時での説明と、契約書類にも記載し、緊急連絡先の把握を行っている。</div> <div>・速やかな連絡・状況説明を徹底していく。</div>
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	93%	0%	0%	7%		<div>・これからもお子様、保護者に寄り添い、まずは安心して療育を行えるよう、職員との関係性を構築する。環境設定にも配慮し、安心して過ごせる場所を提供する。</div>
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	93%	0%	7%	0%	<div>・いつも笑顔いっぱい活動に参加しています。</div>	<div>・お子様に興味関心を通じて、通所意欲がもてるように支援内容に配慮して行っていく。</div>
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%	0%	0%	0%	<div>・大変満足しています。いつも本当にありがとうございます。</div>	<div>・お子様、保護者に満足してもらえる療育を提供できるように事業所全体で取り組んでいく。</div>

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
スポーツ療育センター・ココスポーツ		2026年 2月 17日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	・室内の場合は、コートよりスペースが限られるので安全に実施できるプログラムを設定しており、衝突を防ぐための導線に配慮している。 ・室内の場合は、お子様の活動スペースを確保している。	・お子様が安心して過ごせる空間を確保し、その中で安全にプログラムを実施していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	・職員間で利用定員やお子様の状態を共有し安全に活動を進めている。 ・プログラムの内容やお子様の状態を見ながら、必要に応じて人員の追加を行っている。	・今後もお子様の状態等を見ながら、必要に応じて職員を配置していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	・点字ブロックの配置、車いすの人も使用できるトイレを用意している。2階まで行く際に、分かりやすいように、床の色を工夫している。 ・必要に応じて、視覚支援を用いている。	・引き続き、お子様が安全に取り組める環境設備を行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	・毎日の清掃・消毒を徹底し、心地よく過ごせるように環境を整えている。 ・プログラム中のコーン等用具の配置にも気をつけている。	・安全に過ごせるように配慮し、支援環境の設備をおこなっていく。 ・安全点検、消毒、換気等も引き続き毎日行っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	・必要に応じて、個別の部屋を提供できるようにしている。	・コート内で不安定になったときは、集団から離れクールダウンできるような場所を設定し、お子様が安心して活動に参加できるようにしていく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	・プログラムの前後は必ず職員間で話し合い、目標設定と振り返りを行っている。 ・振り返りで話したことをプログラム表に記入し、次の活動に生かせるようにしている。	・疑問点があれば職員間で共有し、ケース会議等で全体方針の決定や共有を行っているので、引き続き継続していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	・保護者の意向を職員間で共有している。 ・意向の把握、改善を行っている。 ・保護者とお子様の支援の方向性を統一している。	・保護者からいただいたご意見を基に職員間で検討を行い、迅速に対応していく中で、業務改善に繋げていける体制をつくる。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	・お子様の様子を話す機会を毎日設けている。 ・プログラムの終了後や月次会議等で意見交換している。常に気になったことがあれば、話し合いをするようにしている。	・随時、話し合う場を設けて、業務改善に繋げていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%	・社内・保護者様との二者評価は行っている。 ・公式的な外部評価は実施していないが、会社内で業務改善を行っている。	・個々のお子様の状況に応じて対応を行い、個別支援計画書に位置付けたうえで実施していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	・社内研修は月1回以上行っている。 ・当日に受講できなくても、後日視聴できる体制が整っている。	・今後も社内研修に参加し、職員のスキルアップ、資質向上に取り組んでいく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	・支援プログラムを作成し、公表している。	・今後も支援プログラムに沿った支援を行っていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%	・契約時のアセスメントや面談を行い、職員間でケース会議を行い作成している。 ・保護者のニーズや、学校や自宅での様子を聞き取り、お子様の特性もふまえて作成している。	・契約時のアセスメントや面談を行い、お子様の特性もふまえて作成するように努める。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	・職員間で意見を述べる場を設けて、個々に合わせた個別支援計画書を作成している。 ・ケース会議を行い、お子様中心の支援方法を話し合っている。	・職員間の見解を尊重し、総合的な判断を行い作成していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	・作成後は職員間で共有し、プログラム前は支援の方向を確認して取り組んでいる。 ・より良い支援が実施できるように、職員間で日々の支援内容を検討している。	・個々のお子様の個別支援計画書を策定し、計画書に沿って、同じ方向性をもって統一した支援を提供していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	・発達検査等の結果は共有してもらい、保護者面談や日々の姿ををらし合わせて支援している。 ・職員間で話し合いの場を持ち、必要に応じて全体で確認している。	・統一されたアセスメントシートを使用し、計画期間ごとに個別支援計画書を策定していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	・ガイドラインの狙いを職員間で話しながら、設定し支援を行っている。 ・支援の5領域を基に個別支援計画書を設定している。	・お子様の状況や成長に合わせて支援内容を設定していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	・1人が作成するのではなく、職員間で話し合いプログラムを作成している。日々の担当者を決めて、プログラムの内容を立案している。 ・必ずチーム編成や活動内容は相談している。	・職員間で話し合い、支援内容の経過を確認しながら全体でプログラムを立案し、確認を行っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	・お子様の様子に合わせて、プログラムの内容を変更している。 ・お子様の特性や保護者のニーズに合わせたプログラムを検討して行っている。	・お子様が意欲的に取り組める内容を提供していく。



	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	・個別と集団活動の内容をふまえて作成している。 ・お子様の特性や保護者のニーズに合わせて計画書を作成し、支援を行っている。	・集団の中で見られた行動面等を職員間で話し合い、個別支援に活かしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	・支援開始前には必ず職員間で話し合っている。休みの職員にも漏れがないように申し送りをしている。	・職員間でお子様の支援内容を共有し、連携した支援を提供できるようにしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	・支援終了後には必ず終礼を行い、改善点や気づいた点を話し合っている。	・職員間でお子様の支援内容を共有し、連携した支援を提供できるようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	・終礼で話し合ったことや活動内容は、プログラム表に記入している。 ・日々の記録を作成し、内容の振り返りも行っている。	・記録をとることを徹底していく。 ・話し合いが必要な事案は職員間で話し合い、検討を行っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	・半年に一度モニタリングを行い、計画書の見直しを行っている。また、保護者からの相談等必要に応じてモニタリングを行い、計画書を見直し、変更を行っている。	・お子様に合わせて評価時期を早めて、短い期間でモニタリングを行い、個別支援計画書の更新を行う場合もある。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	・児童発達支援管理責任者が会議に参加できるように調整している。	・どの職員もお子様の状況については共有し把握しているので、必要に応じて参加する人数を増やしていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	・必要に応じて、包括的な支援提供を行えるよう、関係機関と連携している。	・最善な状況で支援ができるよう、全体共有の場へは積極的に参加し、連携強化を図っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	・幼稚園、保育園、特別支援学校（幼稚園部）との連携を心掛けている。	・お子様のこと包括的に支援できる体制を整えられるように努めていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%	・モニタリングや担当者会議等で情報共有を行っている。	・就学前に通っていた園や保育園と情報共有を行い、支援していた内容や、どのような支援が必要なのかを検討する機会を設けていきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)			・連携している事業所と連携をとり、助言を求める場合もある。	・助言を受けるにあたり、円滑にやりとりが行えるような環境を整えていく。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	100%	0%		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	・地域のお子様とも関わりがある。 ・イベント等を開催している。	・交流については、実施できるように検討を重ねていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	・プログラム終了後は、保護者とお子様の様子を情報共有している。	・保護者と共通理解を得られるように体制を整えていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	・支援後のフィードバック時に、困りごとや相談等を伺い、適宜アドバイスをしている。	・保護者のニーズに合わせた家族支援プログラムの検討を行っている。 ・法人内の事業所のペアレントトレーニングプログラムの案内を増やしていく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	・契約時に丁寧に説明するようにしている。 ・支援の意図やプログラム内容を伝えている。	・運営規定、利用者負担等について分かりやすく、丁寧に説明できるように努めていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	・モニタリングを行い、意思の確認を行っている。 ・保護者のニーズとお子様の状況をふまえて作成している。	・達成できる課題や目標を設定し、見通しを立てられるように、職員間で確認、検討を行っていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	・計画書は保護者に確認をしてもらい、押印をもらうようにしている。 ・保護者からサインをいただくときは、同意を得ている。	・不明な点があるときは、随時説明ができる体制を整え、保護者が納得できるように努めていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	・相談においては丁寧に聞き取りを行い、助言を行っている。 ・また、フィードバック時に相談内容が解決しない場合は、日程を調整し面談を行っている。	・相談内容が解決しない場合は、別日で日程を調整し面談を行っていく。

保 護 者 へ の 説 明 等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	・親子イベントを実施している。	・保護者が参加しやすいプログラムを今後も検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	・苦情・相談窓口を設置している。また、苦情があった場合はすぐに職員間で話し合い、迅速に対応している。	・苦情があった場合は、すぐに職員間で周知し、改善点を話し合っていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	・SNS等の公衆送信を行っている。 ・プログラムの様子をインスタ等に載せたり、子育て通信を配布している。	・随時ニーズ等も把握しながら、通所満足度を高められる配信を行っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	・鍵付きの保管棚を設置し、取り扱いについては留意している。 ・SNS等に配信する際には、必ずダブルチェックを行っている。	・個人情報の取り扱いについては、十分に留意していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	・お子様や保護者の気持ちを確認し、適切な支援と一緒に考えている。 ・プログラム時に視覚支援を用いて、個々に応じた支援方法を検討している。	・信頼関係を構築し、安心してやりとりができる環境設定をしていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	・秋祭りイベントを開催し、地域の方も参加してもらえよう、交流を図っている。	・地域の方も参加してもらえるようなイベントを開催し、交流を図っていく。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	・マニュアルが作成されており、職員間で共有している。 ・保護者や職員間でマニュアルを周知徹底できるようにする。	・マニュアルを保護者が確認できるような体制を整えていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	・年2回、避難訓練を行っており、消火器訓練も実施している。	・プログラム内で訓練を行い、非常災害の発生に備えていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	・てんかん発作等のあるお子様をお預かりする際は、対応方法を聞き取り、職員間で周知、共有している。	・事前に保護者から対応方法を聞き取り、状況を把握していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	・集団活動では、食事の提供を行っていない。	・個別で療育を行うときは、保護者に確認し実施していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	・アコーディオン門を設備している。 ・感染症や災害時の訓練も行っている。	・不備がある場合は、管理会社に連絡し、迅速な対応を行っていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	・契約時に緊急時の対応、災害時の避難場所等の説明をしている。 ・緊急連絡先の確認も行っている。	・連絡先等の変更があった場合は、確認を行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	・ヒヤリハットを共有し、記録に残すことで見返すことができるようにしている。 ・日々の申し送りで共有し、再発防止に努めている。	・ヒヤリハットがあった場合は報告し、職員間で話し合い、再発防止を協議し実行していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	・虐待防止研修を行っている。 ・虐待防止委員会を設置し、話し合った内容を職員間で共有している。	・職員間で周知し、対応策の確認をしていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%	・身体拘束委員会を設置し、話し合った内容を職員間で共有している。 ・該当するお子様について保護者に説明している。	・職員間で対応策やおこりうる事案を想定し、保護者に説明を行っていく。